



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【Ⅲ】
2 実施対象者	京都市立音羽小学校 4年生59名（育成学級1名含む）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間「やさしいまちづくり」）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害についての理解と認識を深める。 ・車いすバスケットボールの体験を通して、障害をもった人と共に生きていこうとする態度や心情を育てる。
5 取組内容	<p>総合的な学習「やさしいまちづくり」</p> <p>①視覚障害の方のお話 視覚障害のゲストティーチャーに来ていただき、目が見えないということや視覚障害の方への支援についてお話しいただいた。</p> <p>②認知症について知る 地域包括センターの方に来ていただき、認知症について講義を受けた。お話を聞いたりやDVDを見たりして認知症への理解や支援について学習した。（認知症サポーター講座）</p> <p>③車いすバスケットボール体験 京都アップスの選手2名に来ていただいて体験をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手、コーチ紹介 ・車いすバスケットの紹介、選手による実演 ・車いす体験（10コース） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

	<ul style="list-style-type: none"> • 車いすバスケット 5試合  <ul style="list-style-type: none"> • 選手のお話 
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> • 学習の流れとして身体障害だけでなく、視覚障害や認知症などいろいろなことを学習していたので意欲的に体験に取り組むことができた。 • 普通の車いすと競技用の車いすでは、形状、重量、操作性に違いがあることに気がつくことができた。 • 実際に車いすに乗ることで操作の難しさを体感することができた。 • 体験が終わった後に選手のお話を聞かせていただいたのがとても効果的だった。事故にあい下半身が動かなくなった経緯やリハビリのつらさ、そのときの気持ちの葛藤などの話は子どもたちも真剣に聞いていた。学習後のふり返しを見ても、本学習のねらいである身体障害のある人への理解や支援をしようという心情を育むことができたように感じる。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 単に車いすの体験をするのではなく、実際の選手に来ていただくことで子どもたちの実感もより大きなものになった。 • 車いすを使って生活やスポーツしている方から生の声を聞くことで社会の中で「共に生きる」ために自分のできることを考えるきっかけにすることができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 本学校敷地内が完全なバリアフリー対応とはなっておらず、選手の方にとって不便に感じる部分も見られた。
9 来年度以降の実施予定	<p>本校では4年生が総合的な学習で障害をもった人がより生きやすくなるために自分たちができることについて学習をしている。今回の車いすバスケットボール体験は、子どもの反応を見てもこちらの意図するねらいにせまるものであった。可能であれば来年度も継続して取り組みたいと考えている。</p>